今週の
倫理

2025. 9. 13〜9. 19

9月のテーマ　|　よきスタートをきる

1455号

人生には始まりがあれば、終わりもあります。日々、何かが始まり、何かが終わる、私たちは、変化の連続の中で生きています。その中で、何かを始めるとき、「なぜそれをするのか」という目的を意識することが、より良い成果につながる鍵となります。

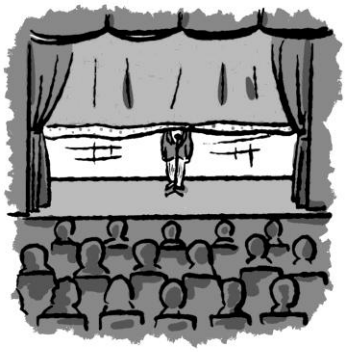
目的や理想を明確にし、「何のために（目的）」「どこに向かって（方向）」「どうやって（方法）」「どのくらい（数）」といった要素を事前にプランニングすることは一般的です。そして、計画をメンバー全員で共有し、役割を明確にしたうえで行動に移します。こうした準備がなければ、関係者が不安を感じることもあるでしょう。

このことを象徴する寓話に「三人のレンガ職人」があります。

ある旅人が建築現場を訪れ、作業中の職人たちに「何をしているのですか？」と尋ねました。一人目は「レンガを積んでいます」、二人目は「壁を造っています」、三人目は「大聖堂を造っています。神を讃えるために」と答えました。

答えはそれぞれ異なりますが、注目すべきは三人目の職人です。彼は仕事の目的と意義を理解し、自分の行動を価値あるものとして捉えています。三人のうち誰かがリーダーであるとしたら、三人目の職人についていきたいと思うのではないでしょうか。

目的を持つことで、仕事にやりがいが生まれます。だからこそ、何かを始めるときには「なぜそれをするのか」という目的を明確にすることが、とても大切なのです。



心を定めて働くことで
人生に彩りと意味が生まれる

倫理法人会の県会長を三年間務め上げたS氏は、就任当初から全国会員数における自会の位置づけを明確にし、中長期戦略として大幅増の目標を掲げ全単会「百社」を目指して年度をスタートしました。

毎月の役員会では、役職者の心に火をつける挨拶を行ない、運営に苦慮する声があれば現地に足を運び、膝詰めで語り合いながら、普及の意義と方法を説きました。行動の背景には、「挑戦を通じて人間的成長を果たしてほしい」という願いがありました。

「達成行事で多くの役職者が感動の涙を流す姿が見える。役職者の成長なくして県創生はない。この実践成果は、必ず会社経営にも生きていくはずだ」と語り、確固たる信念で牽引し、見事目標を達成しました。

このような姿勢は、日常の何気ない行動にも通じます。「何のために」「なぜ一生懸命にやるのか」を突き詰めると、最終的には「良い人生を送りたい」という、誰もが心の奥底に持つ願いに行き着くものです。

世の中のすべての仕事は、健全な社会の営みに欠かせないものであり、働くこと自体に目的があり、自他ともに幸せになる道が含まれています。主体性をもって仕事に取り組むことで、やりがいが生まれ、仕事の質や成果にもつながります。

だからこそ、事を始める前には、まず「心」を定めることが大切です。大きな節目だけでなく、一日一日にも始まりがあります。目的を確認し、心を整えて、晴れやかに一日をスタートしてまいりましょう。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局